



2024年 7月19日
第6号

JR東労組 Yokohama

JR東労組横浜地本

発行人 梶田 優一
編集 情宣 担当
ホームページ



<http://www.jreu-yokohama1.jp/>

横地申
第40号

駅派出検査体制等の見直しに関する申し入れ 団体交渉① 鎌倉車両センター横浜派出所及び大船ホーム検査

1. 横浜派出所について、会社が求める役割と業務内容について示すこと。また、同派出所の設立に際して取り交わした議事録確認(2009年横地申第6号)からの変化およびこれまで検証してきた内容について示すこと。

【会社回答】駅派出検査については、車両不具合への対応による本線上の安全安定輸送の確保を目的としている。なお、車両の信頼性向上、輸送体系の変化、IP無線配備による情報共有の迅速化等の取り巻く環境の変化とともに、対応件数は減少傾向である。

組合	会社
横浜派出所について設立の趣旨は2009年当時と変わりないか。	2009年5月7日、横須賀線のブレーキ不緩解が発端。湘南新宿ラインの輸送力確保のため、中距離電車を守るため設立。近年は輸送体系も変わり、新型車両の信頼性向上により、大規模輸送障害の発生件数が減少してきている。よって今回の見直しとなる。
体制変更後も派出に求められている役割は変わらないか。	今までと変わらない。車両の不具合対応及び本線上の安全安定輸送確保。 確認!
設立から15年、これまでどのような検証を経て体制見直しの判断に至ったのか。	近年は新型車両の信頼性向上およびINTEROSやTIMS搭載車両が増えてきて、モニターを活用して対応できるケースが増えてきた。車両職が行かなくても処置できる場面が増えてきた。床下に降りるような処置も減ってきている。このようなデータで判断した。
トライアルの結果での判断か。	過去1年、2年程度の出動実績等を鑑みて判断した。
出動件数は相当数減っているのか。	軽微なものや車両職でなくても対応できるような件数が増えてきて全体として大きく減っている訳ではないが、走行の安全安定性に関わる物については相当減っている。
グリーン車の給水対応等、2名でないとできない物もある。お客さまサービスの低下に繋がるのではないか。	可能な範囲で対応してもらいたい。あとは車両運用で車セに取り込むなどの対応を行う。

2. 大船ホーム検査について、会社が求める役割と業務内容について示すこと。

【会社回答】駅派出検査については、車両不具合への対応による本線上の安全安定輸送の確保を目的としている。

組合	会社
体制変更の前後で、求められている役割と業務内容について示すこと。	車両不具合対応で安全安定輸送の確保。特に変化は無い。 確認!
横浜派出所と大船ホーム検査をそれぞれ残す理由は何か。	横浜エリアは東海道線を中心に枝分かれが多い。その枝分かれした線に対応できるといった面で配置していく。また、各車セからも必要に応じて合同で対応してもらうことも考えている。

その②へ続く